

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29184 プログラム名 見つけたそう！職人の知恵と「形」！



開催日：平成29(2017)年8月4日(金)

実施機関：長岡造形大学

(実施場所) (松籟閣・長岡造形大学)

実施代表者：平山 育男

(所属・職名) (造形学部・教授)

受講生：中学生 32人

関連URL:

【実施内容】

造形の大学として「日本建築の基礎」を学ぶとともに、受講生が建築における職人の知恵と形を自ら発見することをプログラムの目的とした。実施代表者が長年調査研究を行っている建造物を用い、概括的な説明を行った後に、中学生が当該建造物の伝統的な職人の知恵とその結晶ともいえる「形」を探し、カメラに収めた。

(1) 建物の説明：新潟県長岡市朝日に所在する朝日酒造株式会社が所有する松籟閣にて実施した。松籟閣は昭和初期の建造物であり、プログラムの実施にあたっては、受講者に先入観を与えぬよう、最低限の説明に抑え、受講生自らが職人の知恵と「形」を見つけたすよう努めた。

(2) 写真撮影：全自動一眼レフカメラを1人1台用意し、見学・撮影の時間の確保をした。カメラの使用方法は、写真を専門とする本学教員の松本明彦教授及び教務補助職員、視覚デザイン学科の学生が入念に説明し、撮影が支障なく進むよう配慮した。また、撮影途中に不明点があればいつでも対応できるよう人員を配置した。

(3) 講義：午後は大学に移動し、松籟閣で見ることでできる職人の知恵と「形」について、実施代表者が講義形式で説明を行った。説明においては、造形の持つ意味、その形の成り立ちについて、多くの写真資料を用いた。また、受講生に質問を投げかけながら講義を進め、受講生の関心を引いた。

(4) 講評：松本明彦教授が、受講生が撮影した写真を1人1枚ずつ選び、講評を行った。大画面に映し出された写真を全員で鑑賞することにより、各人がどのような発見をしたかを互いに確認し、視点の違いや多様な価値観を学んだ。なお、撮影した写真ははがきサイズで印刷をし、受講生に配付した。また、今回の成果を周知するため、A3サイズパネルに出力し、学内での展示後、受講生の中学校へ送付する予定である。

◆当日のスケジュール

8:30 長岡造形大学集合、バスにて出発(東中学校、西中学校経由)

9:20 朝日酒造株式会社到着

9:30 開校式(あいさつ、プログラムについて、科研費の説明)

10:00 解説「松籟閣の建築美と技について」

10:15 写真の撮り方の説明

10:30 松籟閣の見学、写真撮影
 12:00 大学へ移動
 12:30 昼食
 13:30 講義「日本建築の技と造形」
 14:15 休憩
 14:25 学内見学
 14:45 作品の講評会
 15:30 修了式
 16:00 終了・解散 バスにて出発(東中学校、西中学校経由)

◆写真

開校式



建物の説明



カメラの使用法説明



写真撮影



講義



講評



講評



修了式



学内展示



【事務局との協力体制】

- (1) 委託費は本学事務局財務課が管理を行い、支出報告書の確認を行った。
- (2) 日本学術振興会との連絡・調整は、本学事務局学務課が実施した。

【広報体制】

- (1) 全体広報は実施代表者及び事務担当者が近隣の中学校へ赴き、本事業の説明、参加勧誘を実施した。昨年に引き続き参加する受講生が2名おり、当該事業が認知されていることを実感することができ、広報活動には有効であったと言える。
- (2) 本事業についてのポスター、フライヤーなどの宣伝媒体は本学視覚デザイン学科に所属する吉川賢一郎准教授が制作を担当し、造形の大学らしい質の高いもので、募集案内を図った。
- (3) 市政だよりに受講生募集の記事を掲載したため、広く市民に周知することができた。

【安全配慮】

- (1) 受講者、本学教職員を除く実施分担者及び実施協力者は傷害保険に加入した。なお、本学教職員は職員としての大学加入保険が適用された。
- (2) 写真撮影の実施時は安全管理のため、受講生約4人に1人以上の割合で実施者又は実施協力者を配し、安全に対して配慮した。
- (3) 写真撮影の実施時、エアコンが設置された部屋を朝日酒造株式会社のご厚意で借り、気分が悪くなった参加者がいた場合の対応を準備した。屋外での撮影を終えた受講生には適宜涼しい部屋で休むよう声がけをした。その結果、体調を崩す受講生はいなかった。
- (4) 中学校教員に引率として参加していただき、緊急の事態にも対応できるよう配慮を行った。
- (5) 受付時及び昼食時、受講者に対し水分を配付し、脱水症状等の対策を行った。
- (6) 夏期の屋外における実施であったため、虫害などには充分注意を払い、看護師免許を有する職員が同行した。

【今後の発展性、課題】

- (1) 更に多くの学校に対して紹介活動を行い、参加を促したい。
- (2) 近隣にある国の登録有形文化財を身近に感じることができ、大学での研究に興味を持ってもらえたようである。

【実施分担者】

松本 明彦（長岡造形大学 造形学部 教授）

吉川 賢一郎（長岡造形大学 造形学部 准教授）

津村 泰範（長岡造形大学 造形学部 准教授）

西澤 哉子（長岡造形大学 研究員）

【実施協力者】 5 名

【事務担当者】

堀 縁（長岡造形大学 事務局 学務課）